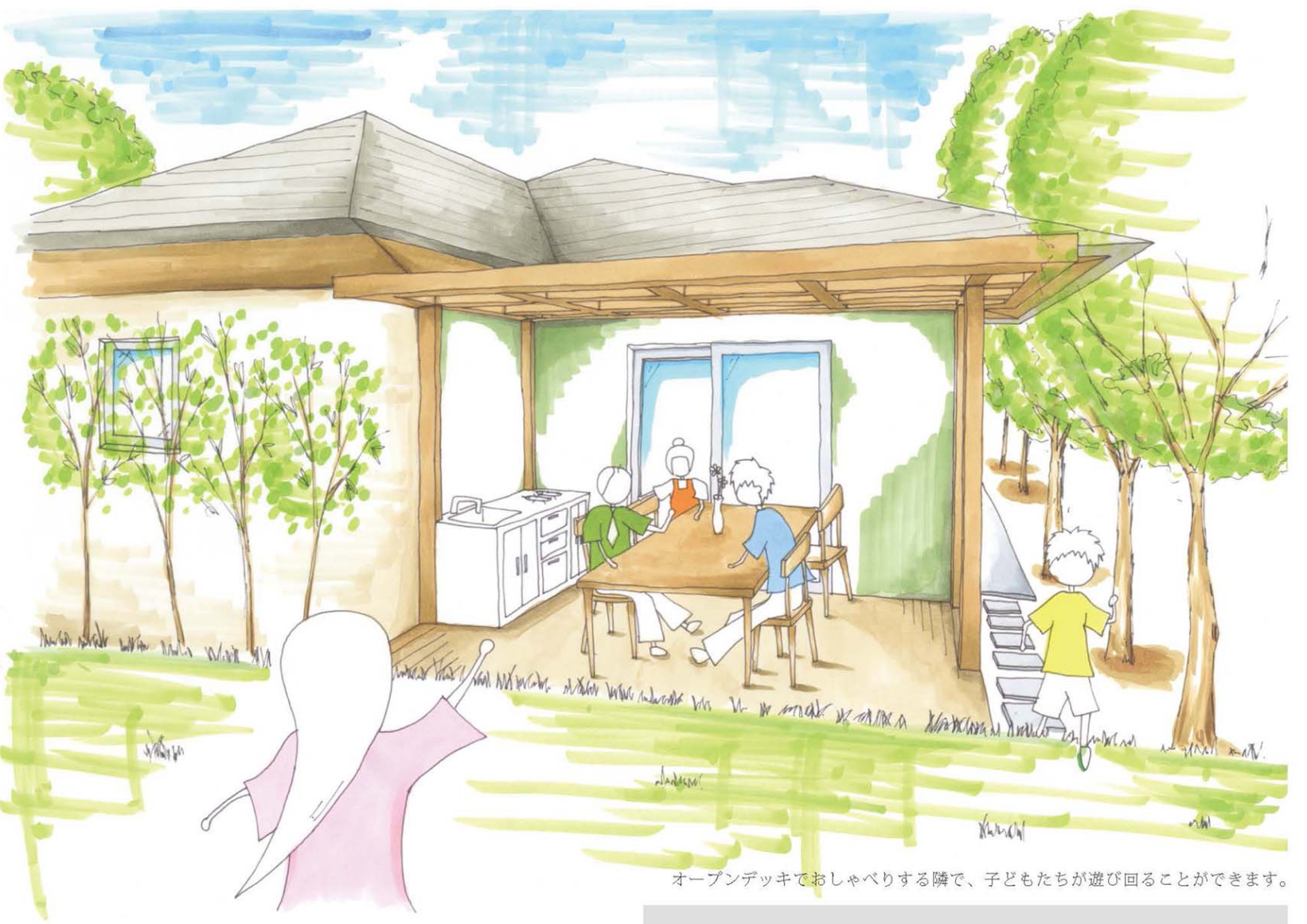




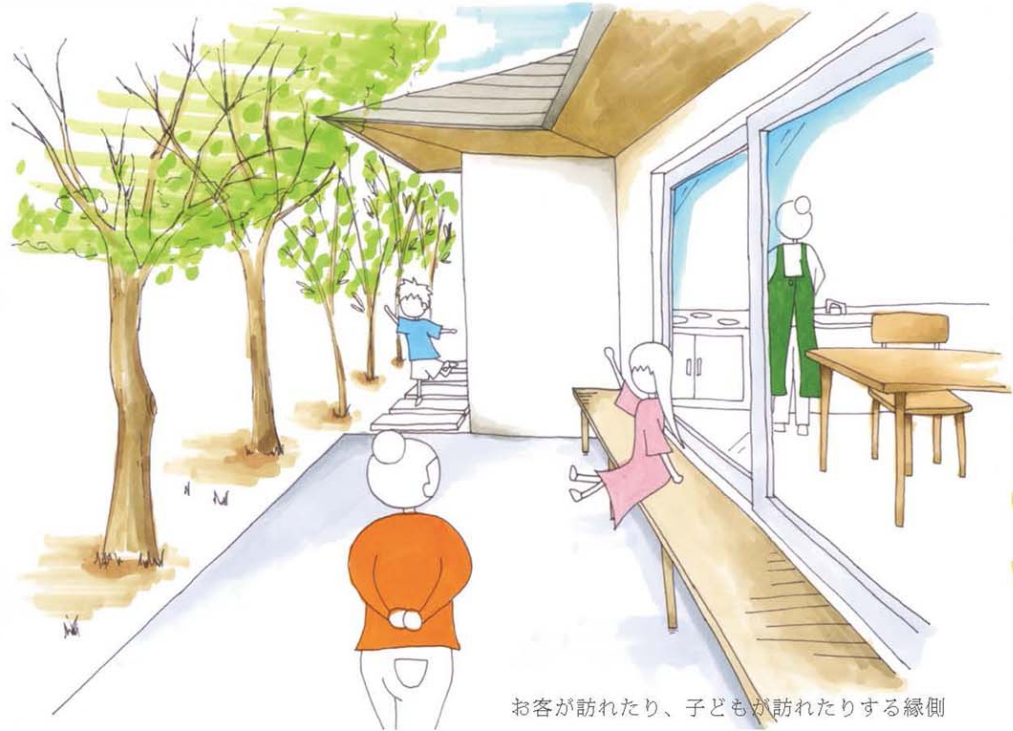
名古屋工業大学 × プラザ不動産
大岩良平

01. 2つの敷地を一体とした2世帯住宅

別々の家に住むことでプライバシーはお互いに守られつつも、子どもが2つの家を行き来しやすい環境をつくることで子どもを通じた関係が生まれ、あたかも同じ屋根の下で暮らしているかのような生活を描きます。

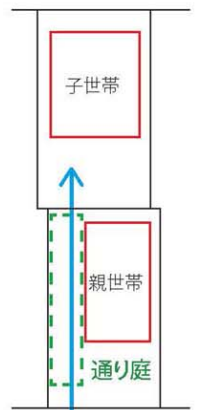


オープンデッキでおしゃべりする隣で、子どもたちが遊び回ることができます。



お客が訪れたり、子どもが訪れたりする縁側

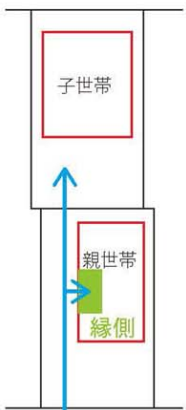
02. 子どもで繋ぐ様々な仕掛け



子どものアプローチ

■ 通り庭=子どもの玄関口

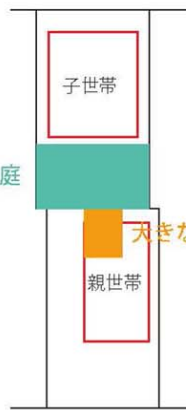
子どもの通学・帰宅アプローチとして親世帯の通り庭を計画する。



子どものアプローチ

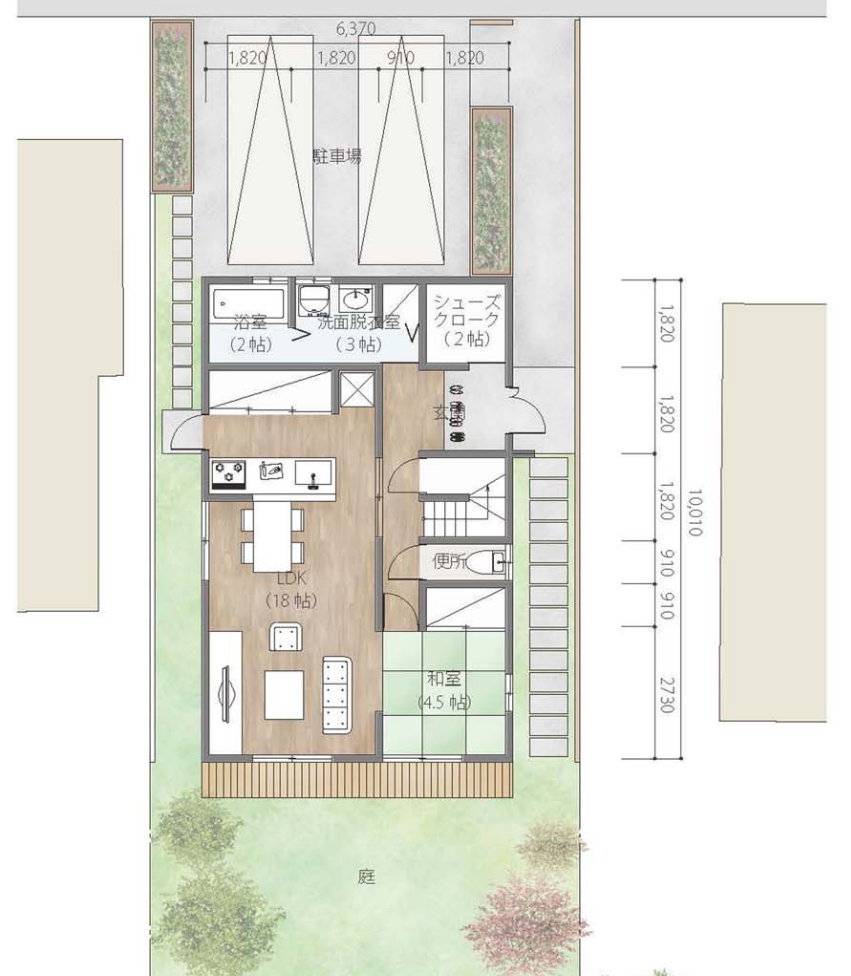
■ ふらっと立ち寄る縁側

通り庭に沿って縁側を設けることで子どもや近所さんが立ち寄りやすくする。



■ 2世帯が繋がる大きな庭

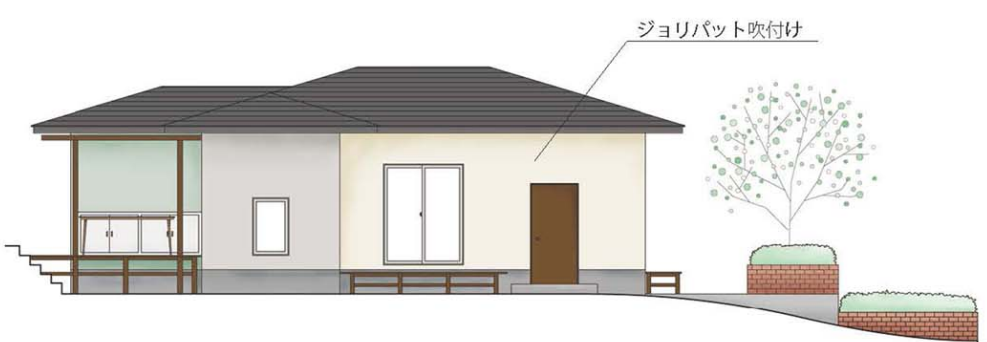
子世帯の敷地と高さの揃えたデッキを設けることで子世帯の庭と一体化する。



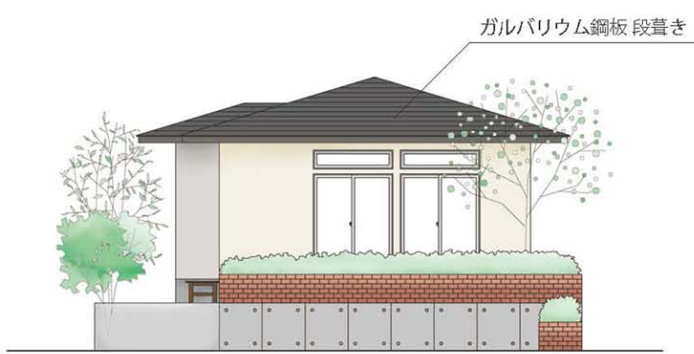
北棟 西立面図 Scale=1:100



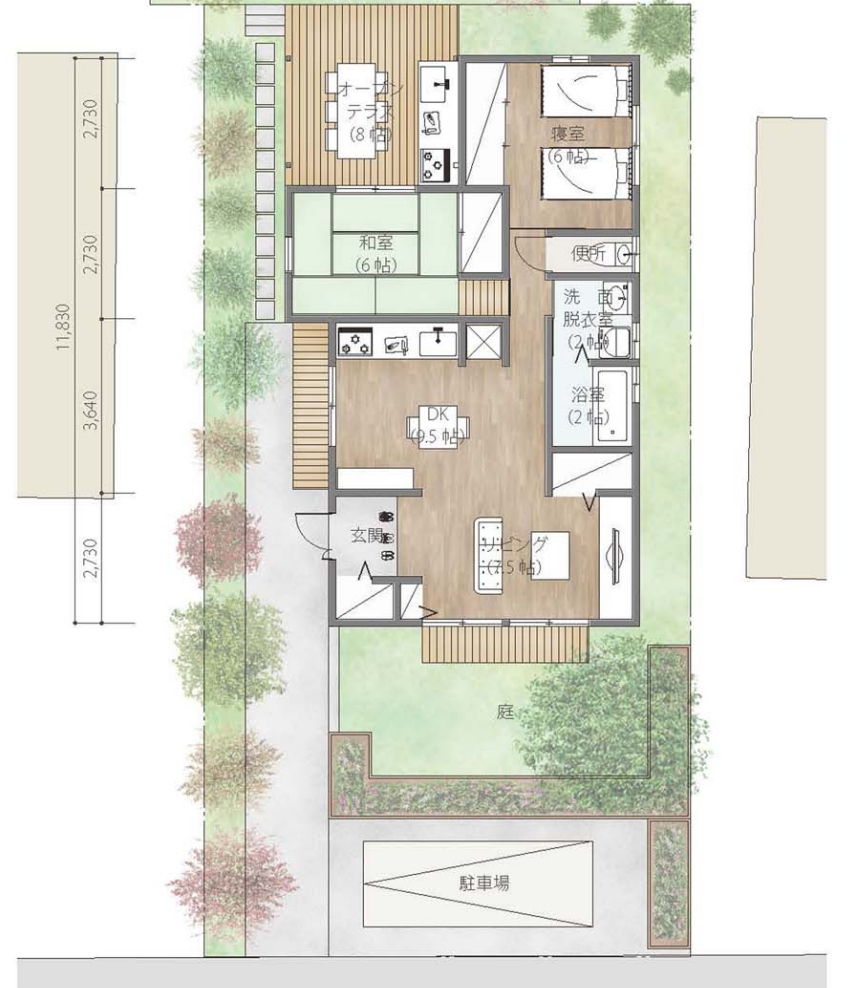
北棟 南立面図 Scale=1:100



南棟 西立面図 Scale=1:100



南棟 南立面図 Scale=1:100



配置図兼平面図 Scale=1:100

03. 1mの敷地の高低差を利用する

南側に位置する親世帯の和室のフロアレベルを800mm上げることで南北2つの敷地に生じた高低差を解消し、子世帯の庭と親世帯のデッキのつながりを強くしました。

